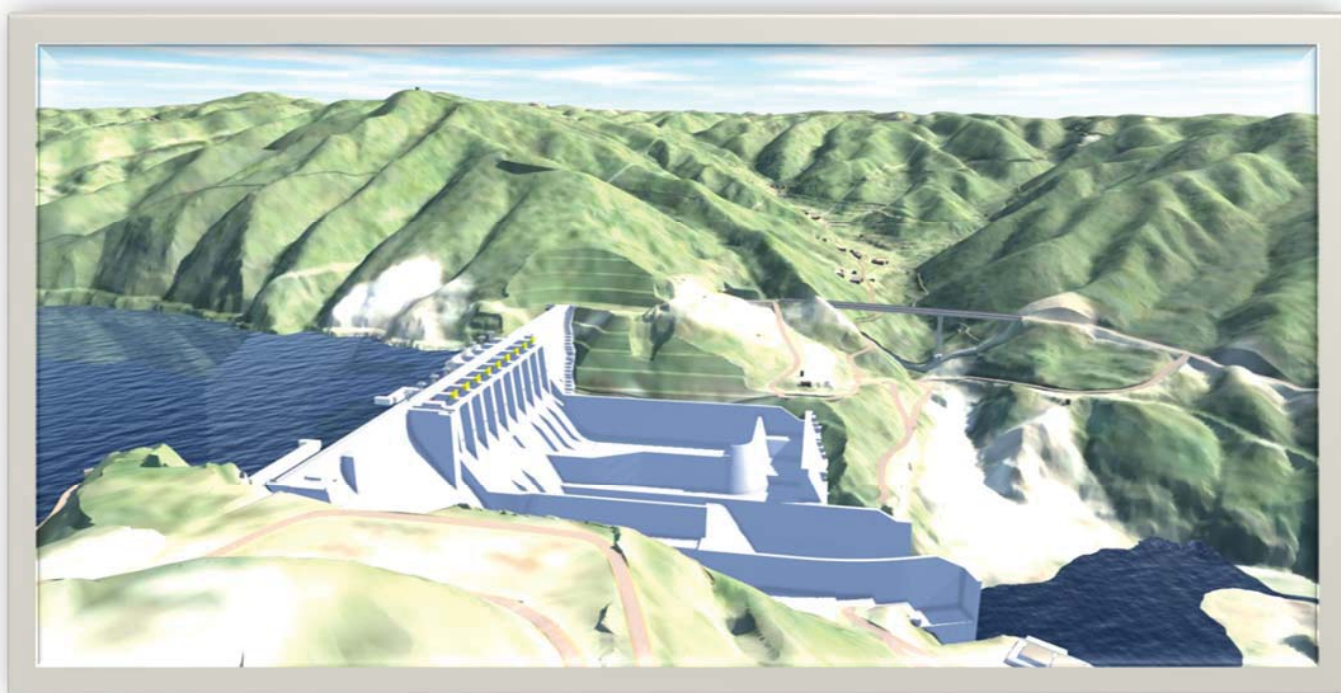


令和3年度 事業概要

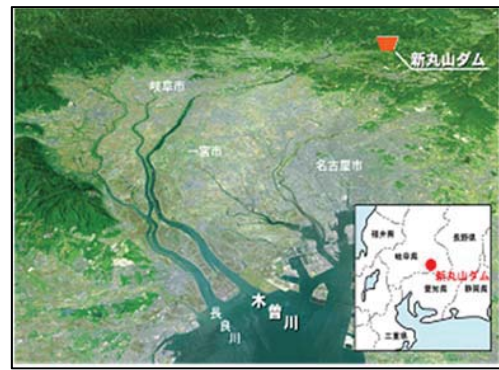
～新丸山ダムは本体工事に着手します～



国土交通省中部地方整備局
新丸山ダム工事事務所

1 事業の概要

新丸山ダム建設事業は、木曾川河口から約 90km の本川中流部に位置する既設丸山ダム(昭和 31 年完成、右岸：岐阜県加茂郡八百津町八百津地先、左岸：岐阜県可児郡御嵩町小和沢地先)をかさ上げすることにより洪水調節能力などを高め、洪水氾濫の防止・軽減などを図る事業です。

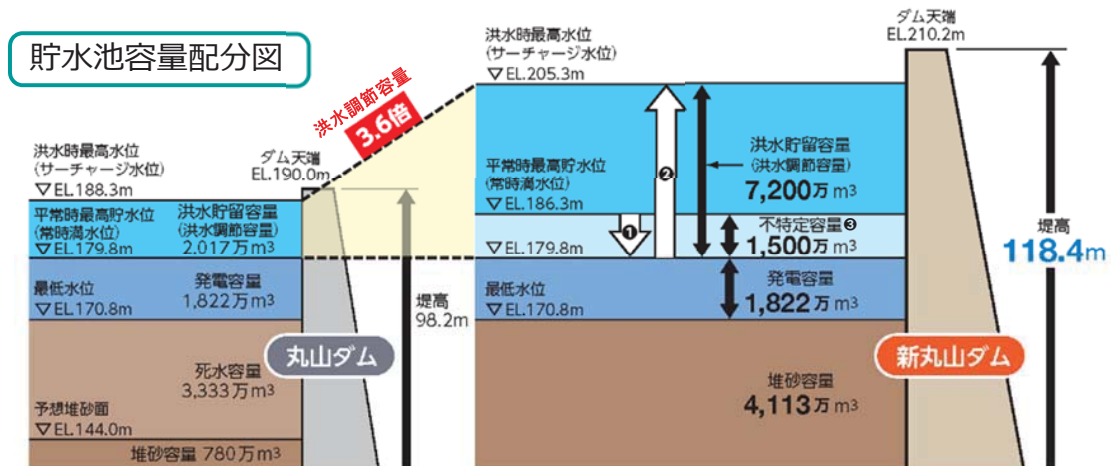


【流域の概要】

木曾川は、長野県木曾郡木祖村の鉢盛山を源流に、伊勢湾に注ぐ幹川流路延長約 229km、支川飛騨川を含めた流域面積 5,275km² の一級河川です。地形的には日本最大の海拔ゼロメートル地帯や堤防より周辺地域が低いなどの特性を有しています。下流域沿川は岐阜・愛知・三重県に接し、11 市 9 町 4 村の約 58 万人の暮らしやものづくり産業などを支える地域となっています。

【目的】

- ① **洪水調節**
戦後最大洪水となる昭和 58 年 9 月洪水と同規模の洪水を安全に流下させます。
- ② **流水の正常な機能の維持**
渇水時において河川環境の保全や既得農業用水等の安定的な供給等のための流水を新たに確保します。
- ③ **発電**
既設の丸山発電所及び新丸山発電所における発電を増やします。

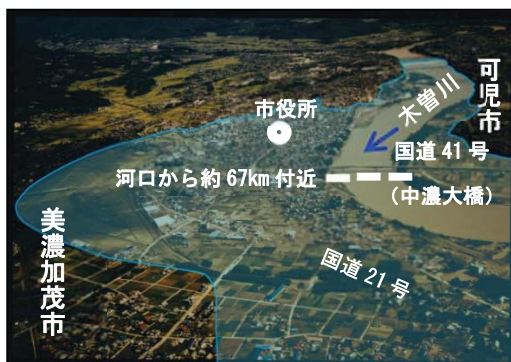


①: 洪水貯留 (洪水調節) の準備をするために事前に水位を下げる操作 ②: 洪水貯留 (洪水調節) を行う操作 ③: 河川における流水の正常な機能を維持するために必要な容量

①洪水調節

【過去の災害】

昭和 58 年 9 月 28 日、台風 10 号に伴う豪雨によって、木曾川は記録的な大出水となり、美濃加茂市・坂祝町などで氾濫し、4,588 戸に及ぶ甚大な浸水被害が発生しました。



昭和 58 年 9 月洪水の浸水範囲



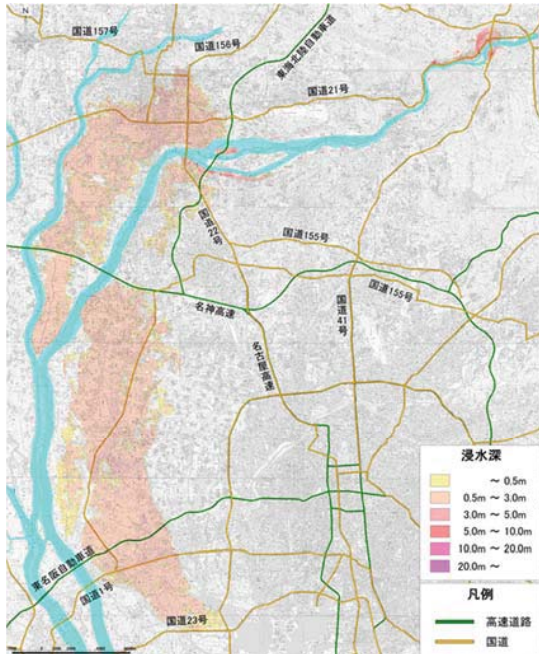
昭和 58 年 9 月洪水の状況 (美濃加茂市内)

【 昭和 58 年 9 月洪水と同規模の洪水を安全に流下 】

洪水調節容量を 2,017 万 m³ から 7,200 万 m³ に増強し、昭和 58 年 9 月洪水に対して、新丸山ダムおよび既設ダムによる洪水調節、樹木伐採と堤防補強を行い、洪水を安全に流下させることが可能となります。

新丸山ダムが無い場合と比べて、今渡ダム下流地点の水位を約 2.7m 低下、想定される浸水を解消することができます。

●事業実施前の氾濫想定図



●今渡ダム下流地点（越水被害のあった美濃加茂市・可児市）
河口から約 67.0km

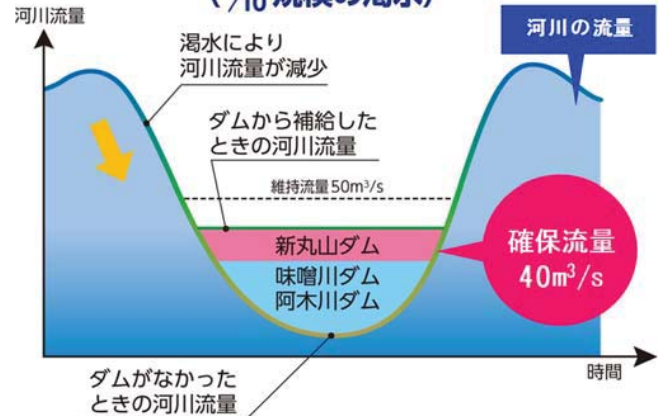


※記載されている図数値等は現時点の試算値

②流水の正常な機能の維持

新たに不特定容量 1,500 万 m³ を確保し、阿木川ダム及び味噌川ダムからの補給とあわせて、既得の農業用水等の取水を安定させるとともに、木曽成戸地点において河川環境の保全等のために必要な流量の一部である 40m³/s を確保します。

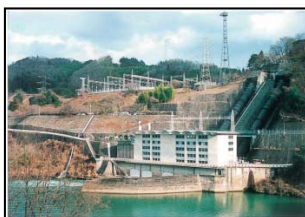
木曽川における維持流量確保のイメージ (1/10 規模の渇水)



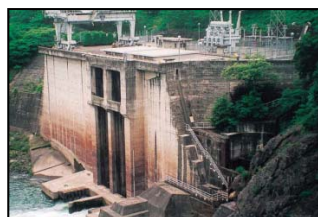
③ 発電

ダム貯水量の増加による高低差を利用して、最大出力を 188,000kw から 210,500kw へと 22,500kw の増電となります。

	丸山発電所	新丸山発電所
現在	125,000kw	63,000kw
建設後	143,000kw	67,500kw



丸山発電所



新丸山発電所

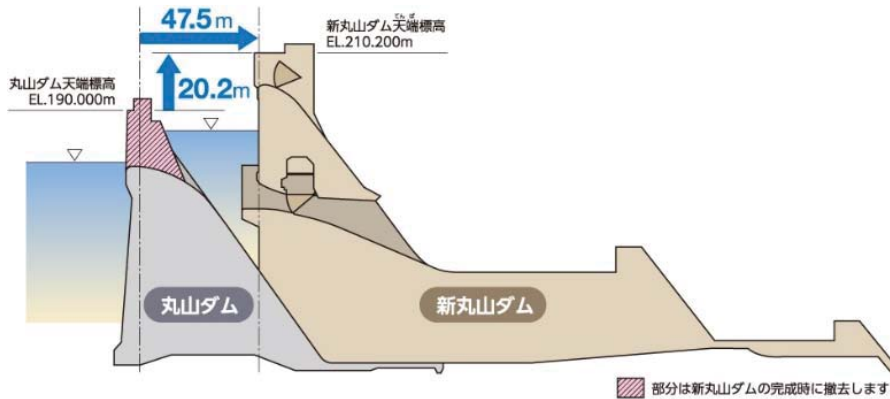


【 新丸山ダムの諸元等 】

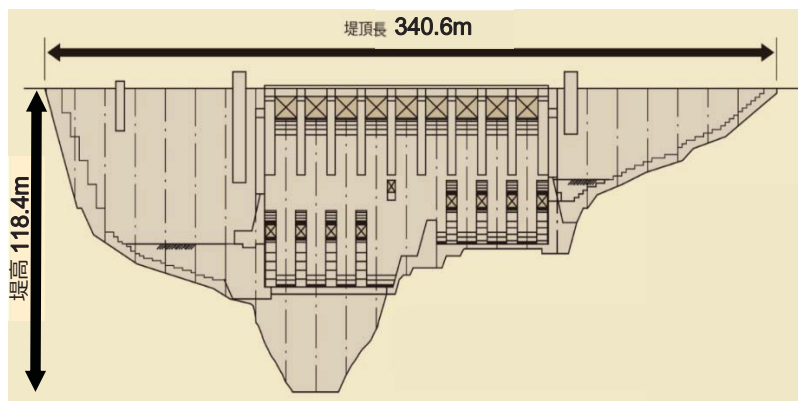
新丸山ダムは、重力式コンクリートダム形式で、現在の丸山ダムより約 48m 下流に約 20m 嵩上げし建設します。

主な諸元は、ダム天端標高は約 210m、堤高は約 118m、堤頂長は約 340m です。

ダム諸元		
	丸山ダム	新丸山ダム
位置	右岸 岐阜県加茂郡八百津町八百津 左岸 岐阜県可児郡御嵩町小和沢	
形式	重力式コンクリートダム	
堤高	98.2 m	118.4 m
堤頂長	260.0 m	340.6 m
非越流部標高	EL. 190.0 m	EL. 210.2 m



ダム側面図



ダム下流図面

2. 新丸山ダム本体建設第1期工事の概要

	全体量(概略)	第1期工事
堤体基礎掘削	700,000m ³	667,000m ³
原石山掘削	429,000m ³	317,000m ³
堤体コンクリート	900,000m ³	238,000m ³
減勢工コンクリート	233,000m ³	86,000m ³
コンソリデーショングラウチング	9,100m	4,800m
カーテングラウチング	16,200m	6,400m

- ・ リムグラウトトンネル工 1 式
- ・ 堤体仮設工 1 式、電気設備仮設工 1 式、濁水処理設備運転工 1 式



完成イメージ

3. ダム本体工事の進め方

①基礎掘削

表土を除却して、所要の強度を有する地盤まで掘削します。



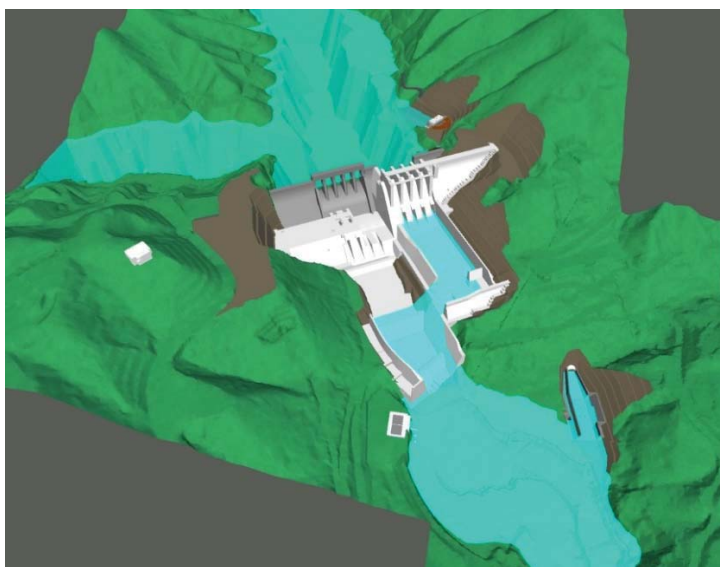
②左岸部を先行して完成させ、既設丸山ダムの放流を転流の放流を転流

河床部施工時のリスクを低減します。



③右岸部を施工

右岸部施工後、試験湛水を行った後、ダムは完成します。



4. 事業の進捗状況

(令和3年3月末時点)

補償基準	H4. 3. 27 新丸山ダム損失補償基準妥結（地権者との用地補償等に係る基準は全て妥結）	
用地取得 (118ha)	99% (117ha)	
家屋移転 (49戸)	100% (49戸)	
付替道路 (15.5km)	70.3% (10.9km)	
工事用道路 (20.1km)	90.0% (18.1km)	
ダム本体及び 関連工事		

--- 実施済み



現況写真 (R3. 2. 22 撮影)

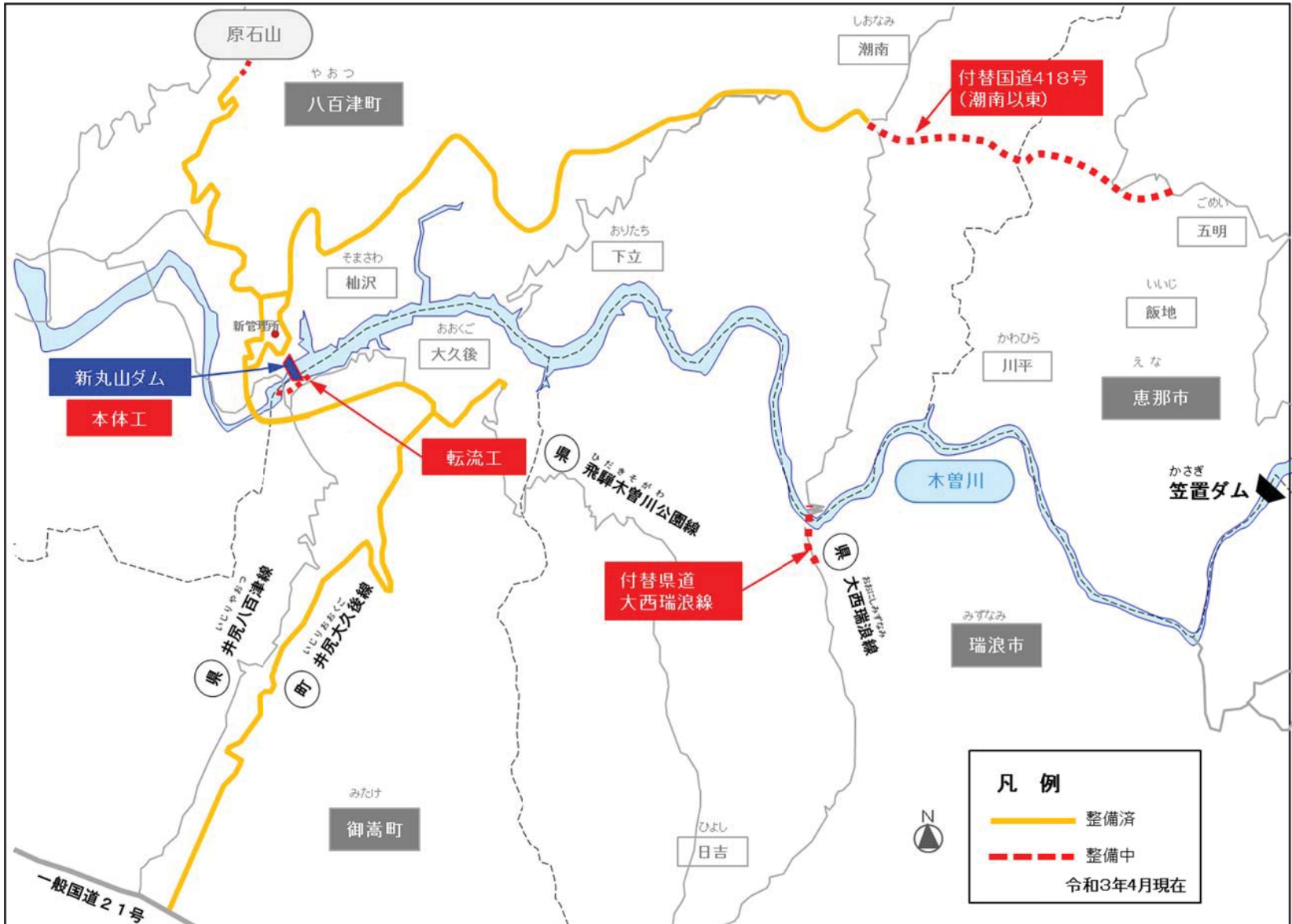
令和3年度の主な事業

①事業及び主な事業の内容

	令和2年度	令和3年度	主な事業内容
多目的ダム建設事業費	(億円) 当初 125.1 補正 10.0	(億円) 109.8	本体工事、付替道路工事等（国道418号、県道大西瑞浪線（五月橋））の工事進捗を図ります。

②主な実施箇所

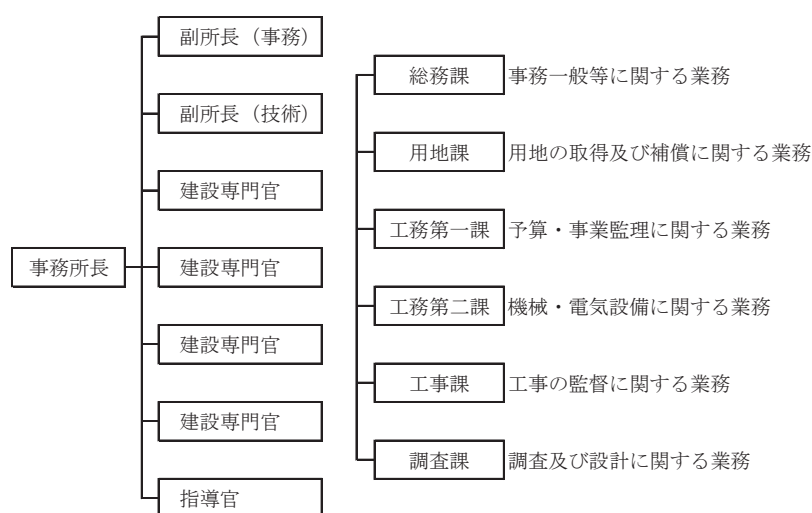
金額は工事諸費等を含む



5. 事業の経緯

昭和31年	3月	丸山ダム完成
昭和55年	4月	丸山ダム再開発事業実施計画調査に着手
昭和58年	9月	戦後最大の洪水。美濃加茂市、可児市、坂祝町、八百津町等で越水 (死者・行方不明者5名、浸水家屋4,588戸)
昭和61年	4月	新丸山ダム建設事業に着手
平成2年	3月	水源地域対策特別措置法に基づくダムに指定
平成2年	5月	特定多目的ダム法に基づく「新丸山ダムの建設に関する基本計画」告示
平成4年	3月	損失補償基準の妥結調印
平成6年	1月	水源地域対策特別措置法の水源地指定、整備計画が決定
平成17年	6月	「新丸山ダムの建設に関する基本計画(第1回変更)」告示
平成19年	11月	木曾川水系河川整備基本方針を策定
平成20年	3月	木曾川水系河川整備計画を策定
平成22年	9月	国土交通大臣からダム事業の検証に係る検討指示
平成25年	7月	新丸山ダム建設事業の検証に関して、国土交通省の対応方針が「継続」と決定
平成27年	1月	木曾川水系河川整備計画(変更)を策定
平成27年	7月	「新丸山ダムの建設に関する基本計画(第2回変更)」告示
平成28年	9月	転流工に着手
平成29年	10月	付替県道井尻八百津線の供用開始
令和2年	1月	丸山ダム管理所移転
令和3年	1月	新丸山ダム本体建設第1期工事の契約締結

6. 新丸山ダム工事事務所の組織



国土交通省中部地方整備局 新丸山ダム工事事務所

岐阜県加茂郡八百津町八百津 3351 番地
TEL (0574) 43-2780



新丸山ダムのキャラクター
しんまるくん

R3.4.1版

新丸山ダム工事事務所 Web サイト

<https://www.cbr.mlit.go.jp/shinmaru/>